

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100246		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	群馬県安中市宿1-9-6		
自己評価作成日	令和4年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者様の思いをくみとり利用者目線で生活のお手伝いをしています。                  ②リハビリ体操・レクダンス・歩行練習を行い、筋力保持やADL低下防止に努めています。                  ③看護師が週2日は健康管理につとめていて、状態に変化がみられた時にもすぐ対応出来るようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍、人との触れ合いが難しいなかで、これまでの関わりから地域の方による、事業所周圍の鉢花の世話や災害訓練の呼びかけ、野菜の差し入れなど、利用者が地域の中で暮らせる基盤づくりにつながる交流が行われている。利用者一人ひとりを尊重し、食事においては自己決定できるランチ企画や、入浴においてはボードを活用した入浴の順番の表示・服薬によるその人らしさを奪うことのないよう、利用者を主役にした生活の提供に努めている。あわせて、頭の体操・リハビリ体操などを行い、今より身体機能などが低下しないよう、個々の状態に合わせた楽しめる内容でプログラムしている。職員間においては、ミーティングのほかに職員全員の全体会議の開催、年末の個人面接など、意見聴取の機会づくりが行われ、働きやすい環境づくりに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ※コロナ禍の為外出自粛中	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱和し、職員全員が共通認識をもって業務にあたっています。	理念は、毎朝の唱和での意識づけとあわせて、利用者一人ひとりの環境や個性を考えミーティングで話し合い介護計画につなげ、個々の介護に生かせるよう、理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶はじめ、花壇の世話をしていたり、ペットボトル回収に協力など地域と交流しています。	これまでのつきあいから、地域の方により、玄関前の鉢花の管理や野菜のおすそ分け、自治会の情報などの声掛けが自然と行われている。認知症の相談場所にもなっていることから、職員からの地域への声かけ、地域の方からの相談がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を積極的に図ることで認知症の方への理解をして頂く努力をしています。また、地域の方からの相談があれば援助をさせて頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の記録をご家族様に配布しています。事業所の取り組みや状況をお伝えることで激励の言葉ももらえることもあり、一層、サービス向上の励みになっています。	コロナ禍の為、市の担当者との運営推進会議を行い、事業所の取り組みや利用者個々のサービスの実情を報告している。そうしたなか、市と、コロナ禍における面会対応や対策などの相談を行っている。会議後は議事録を作成し、利用者家族や運営推進会議のメンバーに手渡しや発送をしている。	利用者家族や会議メンバーとの関係性が出てきているからこそ、会議開催ができないなかで議題を設けるなどで働きかけ、事業所への意見や要望を聴取することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(市)の担当者には運営会議に参加して頂き、電話やメールで報告、連絡、相談をして、協力、指導を頂いています。	運営推進会議での事業所の現状報告や相談の他、市からの情報を得ている。その他、日頃、困ったことがあれば、市に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し、利用者様の気持ちに沿った介護を心がけ、施錠に頼らないケアを目指しています。やもを得ない場合にのみご家族様、関係者と相談させて頂きます。	運営推進会議の中で身体拘束検討委員会を行い、報告と検討を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。薬の服用により力を奪うことも身体拘束と捉えて、寄り添う介護を職員全員で勉強会を行い共通認識を持ち、利用者に関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時は全身観察につとめ、異常があれば随時報告をしています。身体的虐待だけでなく、言葉の暴力についても注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方を通して、制度についての理解を日々勉強しています。利用者の要望に対して関係者と会議をもち支援させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者、ケアマネが立会い、ご説明をして、ご家族様に納得して頂いてから契約を結びます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、運営推進会議出席をご遠慮頂いていますが、例年は会議で意見を伺い、記録を全てのご家族に配布して運営に反映出来るようにしています。配布した記録をみて感想の声も届きます。	家族には、月1回の支払いの他訪問時や電話で、意見や要望が話しやすい関係作りに努めており、ケアに関する意見を聴取して、ミーティングで話し合い反映に努めている。運営推進会議の議事録を送り現状と伝えているが、運営に関した意見の聴取にはいたっていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見や提案をくみ取り、代表者、管理者等で相談をして、職員の希望を反映できるように努力しています。	毎月のミーティングや3ヶ月に1回の全体会議で、勤務体制にあわせた業務を検討したり、職員の要望を受けて研修受講につないたり、職員の意見が反映される仕組みがある。年末には代表による個人面接が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の相談にのり、働きやすい環境、職員が向上心をもてる施設運営を心がけています。各自の働き方にも柔軟に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に受ける様に職員へ促しています。職員の力量を見極めて研修の推薦をしています。研修受講の際は安心して受講できるように勤務調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(市)の連絡協議会には積極的に参加をして同業者と情報交換する機会を設けています。コロナ禍の為、対応についても都度連絡を取るようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談でご本人様、ご家族様双方の希望を伺っています。健康管理、清潔保持に関してはどの利用者様にも安心してサポートをさせて頂き、必要に応じてご家族様に連絡を取り、良好な関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階でご家族の要望、希望は伺い、心配事などはいつでも話して頂けるよう信頼関係を築く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に情報を共有し、何を必要としているかを把握し、必要としている援助ができる体制を整えています。また、状態を確認したあと、更に必要な支援があるかを話し合っていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という立場を良しとしないで、利用者も職員も家族の様な気持ちを持って対応出来るように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族への思いを大切にして、電話連絡や窓越しの面会をしています。ご家族様にも近況を伝えさせて頂き安心して利用していただく努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会や外出が制限されていますが、状況をみながら馴染みの美容院へ出かける方もいます。また、地域の連絡などは橋渡しをさせて頂いています。	コロナ禍で馴染みの人との交流や場所への外出ができないため、本人・家族からの情報をもとに、今まで行っていた趣味や野菜づくりなど生活体験を尊重し、踊りをされていた写真を飾ったり、土いじりなど、今できることにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の場所やレクリエーションの際は個々の性格やできる能力の把握に努め、利用者同士良好な関係が築ける様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談可能なことを伝えていきます。必要に応じ、病院面会や電話での支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞けるように職員はコミュニケーションを図り、ミーティングで共有できるようにしています。利用者の思いを尊重してご家族と相談もしています。	居室で休息しているなど一人での時や、入浴時などに、さり気なく問いかけ、把握に努めている。会話が困難な利用者には、顔の表情やその利用者との合図、ホワイトボードでの筆談でその真意を察し、職員会議で検討して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で生活歴や暮らし方、環境などの情報収集を図り、職員が情報共有できるように記録しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝まで個々の現状と変化を見落とさないように心掛けています。いつもと違った言動があれば申し送り、記録に残し、全職員が対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや全体ミーティングで現状の課題について意見を出し合い、ご家族、又は主治医に相談のもと、よりよいケアになるよう介護計画を作成しています。	本人・家族の希望を基に介護計画を作成し、アセスメントを行い、職員全員で意見交換・モニタリング・カンファレンスを毎月1回行っている。変化があれば、その都度話し合いを行っている。	介護計画をもとに行った日々の介護の内容が記録として残るよう、介護計画と介護記録の整合性がとれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の状態や気づきを個人記録に記入しています。その日の様子がわかるような記録を心掛けています。重要なことは申し送りや日報にも記入し、情報共有して介護計画の見直しに活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所介護を選択される方、GH入所される方、又は特養入所までのつなぎとして利用される方など、本人、家族様の状況に応じて柔軟に対応できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源である地元のお祭りや文化祭に参加したり、初詣に近くの神社へ行ったり、利用者様に心豊かな暮らしが出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認して、適切な医療が受けられるように支援しています。ご家族の意向で往診を選択される方も柔軟に対応しています。	かかりつけ医の受診は、本人・家族の希望に沿って対応している。かかりつけ医の受診は家族が対応し、事業所での日々の様子は、FAX・電話などで伝えている。必要があれば、同席している。また、協力医の往診、看護師がおり、適切な医療が提供できるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や全身観察時の気づきがあれば報告し、看護師が不在の時も連絡をとって適切な処置が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は定期的に面会に行き、利用者の状態確認をしています。また、病院関係者と情報交換に努め、利用者、ご家族様が安心して退院できるように協力関係に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の施設で出来る支援を説明しています。主治医の判断で看取り期に入る旨は改めてご家族と話し合いを設け、関係者が共により良い支援が出来るように努めています。	入居時に、事業所で出来る支援を説明し、状態変化の都度、かかりつけ医から説明と意向の確認を行っている。看取りを経験するなかで、職員の希望から「終末期を支えるケア講座」の受講につなげるなど、重度化や終末期支援に向けて努力している。看取り後には、職員間で思い出を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師不在の時でも落ち着いて対応できるように緊急連絡網を整備して初期対応にあたっています。応急手当については看護師に随時教わり、職員で共有するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練などで職員の意識化を図っています。また、火災訓練時には近所の方にも声掛けをし、参加をお願いしています。水害訓練も年1回必ず実施し、大雨による河川氾濫への警戒は常に持つようにしています。	年2回の自主訓練を行い、1回は、水害と夜間を想定して、利用者と共にしている。過去の避難体験を活かして、市への提案を行うなど、地域との体制づくりにも努めている。備蓄を年1回は確認し、福祉避難所として、地域の受け入れ対応にも協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴やご家族様からの情報を共有して、個性を大事にしたいと思っています。また、利用者様は人生の大先輩であることを念頭に置き、言葉かけや介助の仕方を気を付ける様にしています。	言葉遣いだけでなく、イントネーションにも配慮している。利用者一人ひとりの性格や人格を重視し、日々その時の状況を考え対応している。職員の対応で不快な様子を見たときは、管理者や職員同士で注意し、利用者の気持ちを大切に日々さりげないケアに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの職員とコミュニケーションの中で希望や思いを聞けるように働きかけています。言葉で伝えられない方は指を握ってもらうなどの動作で自己決定してもらい職員が思いをくみ取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションは声掛けはしますが、強制はせず、ご利用者様の意思を大事にしています。お部屋でテレビをみる方など自分のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装を準備し、季節にあった物を選んで着て頂きます。お化粧をされる方には必要な物を一緒に買いに行ったりします。(コロナ前)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなど、出来る事は職員と一緒にに行います。希望を聞きながら毎月パンランチやお楽しみランチを企画し、要望に応えられるようにしています。	日々の生活の中で食べたい物を聞き、ちらし寿司など毎月1回お楽しみランチを企画している。その他、パンランチを行い、自分で好きなパンを選び食べるたのしみを提供している。イベントにあわせて、バレンタインデーにクッキーを作ったり、おだんごを作ったりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録に残し、必要な量が摂れているかを確認しています。飲み込みの悪い方にはトロミをつけて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしています。入れ歯を使用している方は容器で洗浄し、介助が必要な方は職員が歯ブラシ、うがい薬を使いお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを確認して一人ひとりのパターンを把握し職員が支援するように努めています。車イスの方も立位がとれればおむつは使用せずトイレでの排泄を心掛けています。	トイレでの排泄を基本に、排泄チェック表を使用し、さりげなくトイレ誘導している。失敗したくないという利用者の気持ちに寄り添い、状況にあわせてパットなどの使用を検討し、不安なく過ごせるようにしながら、自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認をして、便秘気味の方は看護師に状況や原因など報告、相談して個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっていますが、利用者の体調や都合で随時変更可能です。入浴者の順番がわかるように貼りだしているのので、ご自分で入浴前の準備、タイミングを合わせていただけます。	入浴は週2回、夏場は3回としており、入浴日は入浴の順番がわかるようにホワイトボードに記入することで、利用者が入浴のタイミングがわかるようにしており、生活の流れを自身で調整できるようにしている。これまで使っていたシャンプーを使う方もおり、それぞれにたのしめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて静養室を利用し、いつでも休息をとって頂けます。また、シーツ、布団は常に綺麗な状態を心がけ、気持ちよくご利用できるようにしています。居室にはナースコール、人感センサーを設置し、職員がすぐかけつけられることで、安心して眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテで常に最新の服薬情報をみられるようにしています。症状の変化があれば、医師、看護師に報告しています。薬の変更時は申し送りノートに記入して全職員が把握するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、塗り絵、洗濯物をたたむ事など、日々それぞれの力に応じた役割や楽しみごとの支援をしています。季節に応じた飾り物を作製して、作った物への達成感と、見る楽しみを感じられるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で不要不急の外出が出来ませんが、普段はご家族と連携をとって希望する場所へ出かける為の支援をしています。天気の良い日は近所へ散歩に出かけたり、地域の方と交流も図ります。	散歩や外気浴の他、テラスで花を植えたり、ソファに座りながら、隣のお店での買い物風景や人の往来を見たりして、外気に触れる気分転換が図れる機会としている。また、行きつけの美容室でパーマや髪染めをする方もおり、その人にあわせた外出も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力に応じて少額のお金は自己管理しています。お預かりしている方は預かり帳をつけて、いつでも買い物ができるように支援をし、ご家族さまにも開示させて頂きま		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をつないだり、便箋を用意してお出ししています。暑中見舞いは全利用者様出されました。携帯をお持ちの利用者様は自由に利用されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井は高く、天窓から陽射しや風が入り居心地の良い空間となっています。ホール内の壁には月ごと、季節ごとに掲示物をかえて、季節感と日々の話題につながる様にしています。	居間には神棚があり、職員の掛け声で手を合わせる生活がある。置一枚ほどの手作りカレンダーは、利用者の手先のリハビリを兼ね、職員とともにその季節に合わせたものを毎月作成している。また、利用者同士の相性を考え、居心地のよい空間で過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを配置して自由にくつろげる場所になっています。また、廊下奥に金魚スペースがあり、思い思いに生き物を眺めることで癒しの場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた物を持ってきて頂いたり、写真を飾ったりしています。レクリエーションで作った物を飾り、自分の部屋を自分らしく居心地よい空間になるように努めています。	落ち着く場所であるように、テレビ・こだわりの衣類・手作りの作品・写真など、それぞれの思い出のあるものが持ち込まれている。部屋の入り口には、氏名の代わりに花の名前が書かれ、自分の部屋がわかるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は車イスが通るスペースを確保して、安全に生活が送れるように整理整頓、衛生面にも注意しています。居室クローゼット内は何が何処に入っているのかネームを貼り、自立の手助けに努めています。		